DuMA ニュースレター *2026年8月3日*

熊本で震度7を観測する地震発生

2026 年（令和 8 年）7 月 28 日 16 時 27 分、熊本県で震度7を観測する地震が発生しました。地震のマグニチュードは7．1となっています（気象庁暫定値）。この地震は気象庁により「令和 8 年熊本地震」と命名されました。

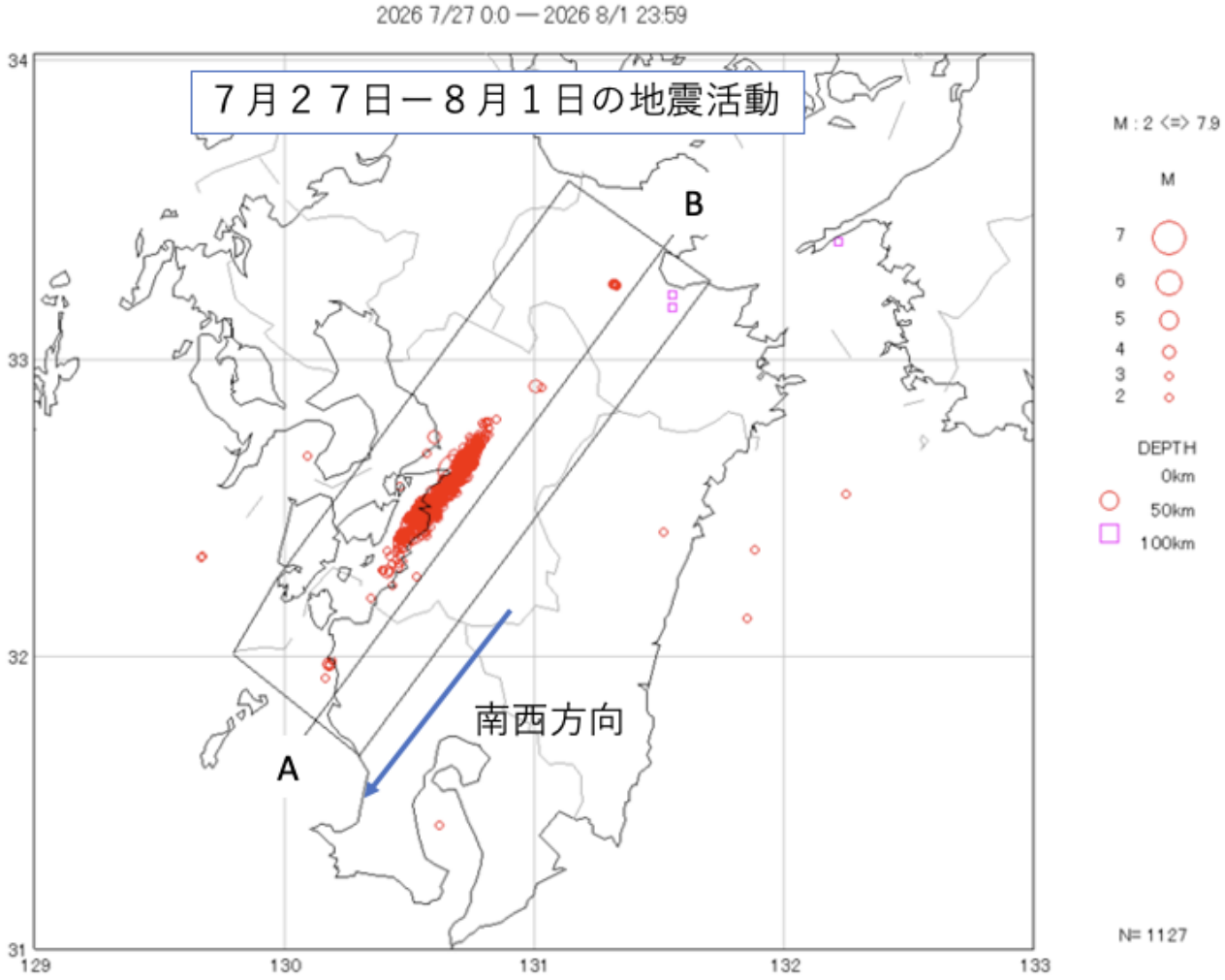
この地震で被害を受けた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

この地震は2016年の熊本地震で活動した日奈久断層の割れ残りの部分（セグメント）で発生しました。DuMA/CSO を含む研究グループでは、まさに当該地区で歪みが溜まっており、将来において大地震の発生可能性が高いという記者会見を熊本県庁で行っておりました。当時の資料に7月28日の地震の震源を書き込んだ資料を以下におきました。

https://www.sems-tokaiuniv.jp/tmp/20190903lectureEpicenter.pdf

もちろんこれは予知ではありませんが、地震学的なデータの蓄積により、どこに歪みが蓄積しているかは、かなりの高精度でわかるようになってきました。

次にお示しする図は7月27日から8月1日までに発生したマグニチュード2以上の地震をプロットしたものです。



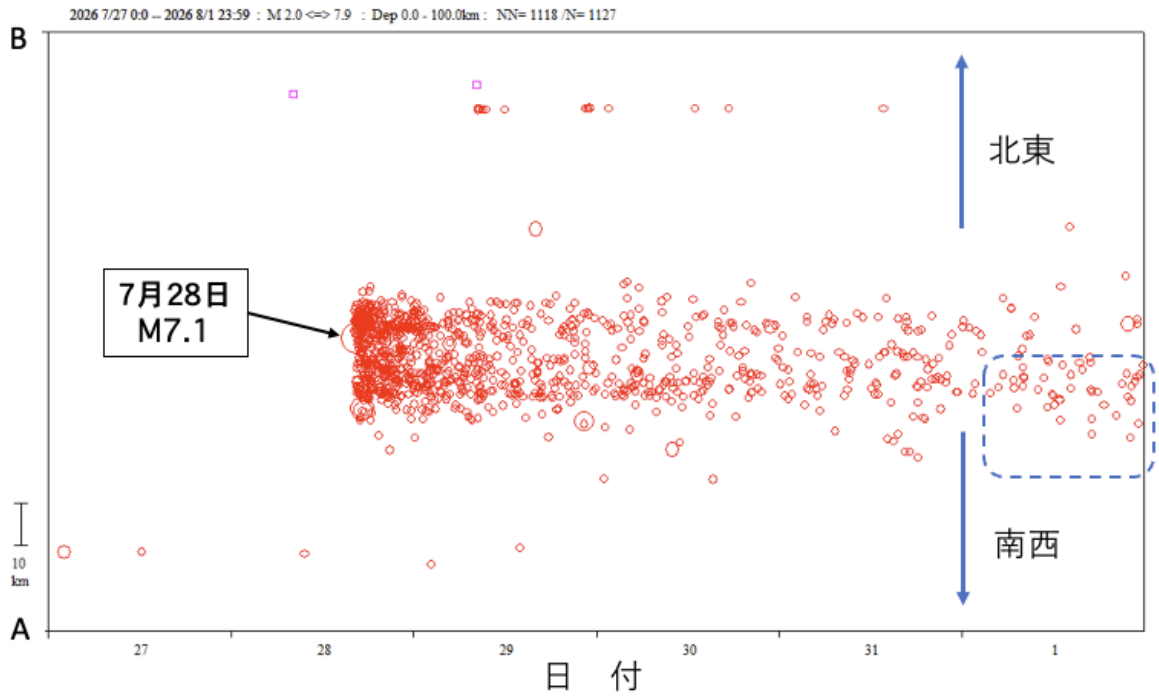
DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。 提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。 DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。 ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。（個人会員） — 記事の無断転用は禁止します。— 本掲載記事の著作権はDuMA Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は DuMAが独占ライセンスを受けている登録商標です。

住民の皆様にとって一番の関心事と思われますのが、2016年のように今後さらに大きな地震が（近日中に）発生するのかという点かと思います。

私共を含めた複数の研究者の解析では、少なくとも2016年のようにさらに大きな地震が発生する可能性は小さいと現時点では考えられています。

ただし、政府の地震調査委員会もコメントしていますように、日奈久断層にはまだ水俣市の周辺に長さ30kmほどの「割れ残り」の断層が存在しており、ここでは、7月28日の地震でさらに歪みが増加していると考えられるのです。

次の図は、前ページの四角で囲まれた領域でどのような地震活動が続いているかを示したもので、縦軸が A-B 断面（距離）、横軸が日時を示しています。



現時点で余震（ここではあえて余震という言葉を用います）活動が、断層の南西方向で活発化しているように見えます。

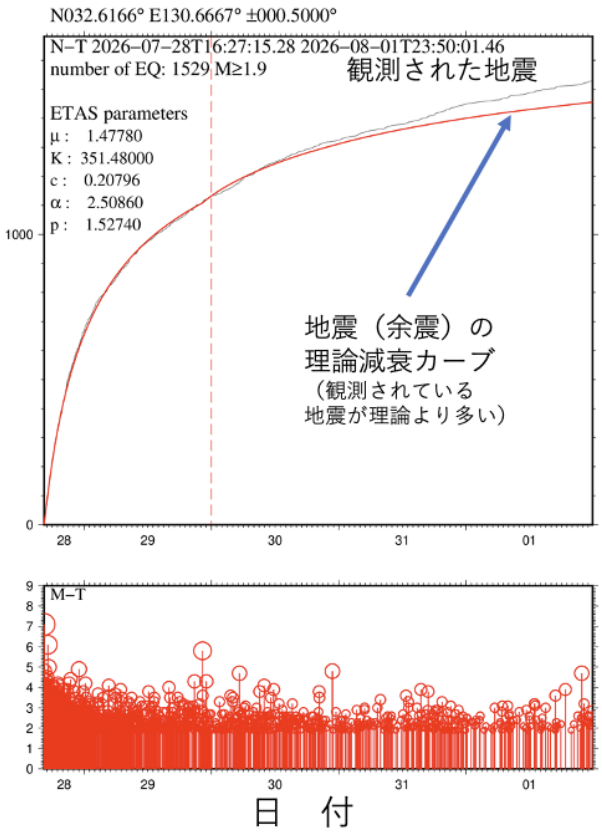
実は余震活動を最もよく説明するモデルが ETAS モデル(地震活動度解析の"拡大連動型余震モデル")というものがあります。このモデルは現在の地震学で最も信頼されている地震活動度のモデルで、国際的にも気象庁でも採用されている解析手法です。特に余震についての活動の解析で認められているモデルです。

ETAS モデルの説明は　https://www.duma.co.jp/basic　の中ほどに記載してあります。あわせてご覧くださいませ。

余震活動の減衰については、この ETAS モデルによる理論的な減衰曲線と、実際の地震活動度を比較することで、今後の地震活動の予測につなげています。次のページに ETAS 解析の結果をお示ししますが、8月1日の段階で、どうも理論的な減衰曲線より、実際の地震活動が活発であるように見えます。この活発化の原因が日奈久断層の南側（最初のページの図で南西方向と記載してある領域）が原因である事もわかりました。

DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。　提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。 DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。 ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。（個人会員） — 記事の無断転用は禁止します。— 本掲載記事の著作権はDuMA Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は DuMAが独占ライセンスを受けている登録商標です。

右側の図が ETAS 解析の結果となっています。上の四角の中で赤線でしめされたグラフが理論的な地震活動の減衰曲線です。それに対し、実際の地震活動のグラフが上側にずれている事がわかります。



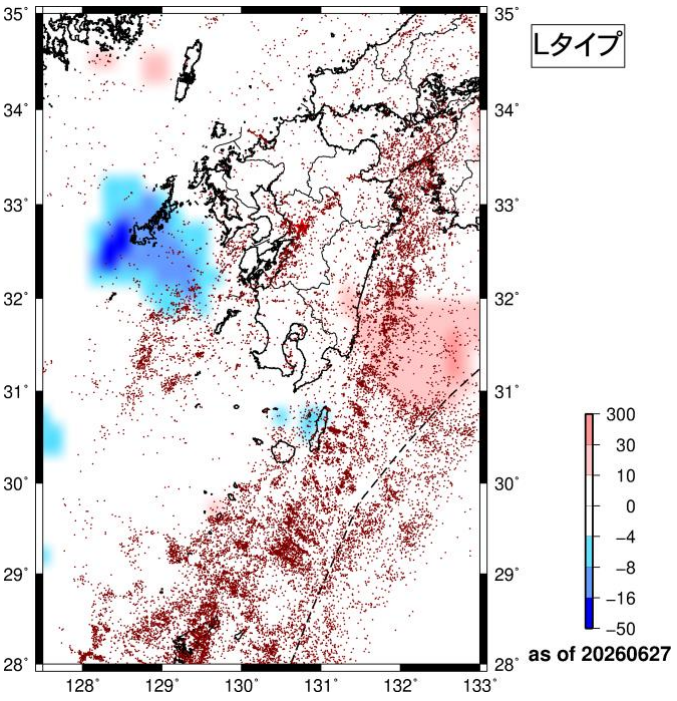
熊本市街地は7月28日の地震では、歪みが解放された領域にはなっております。ただし、阿蘇山の近傍では、少し地震活動が活発となっており、歪みの伝搬の理論計算でも、阿蘇山周辺は7月28日の地震で歪みが増加する領域となっているのです。

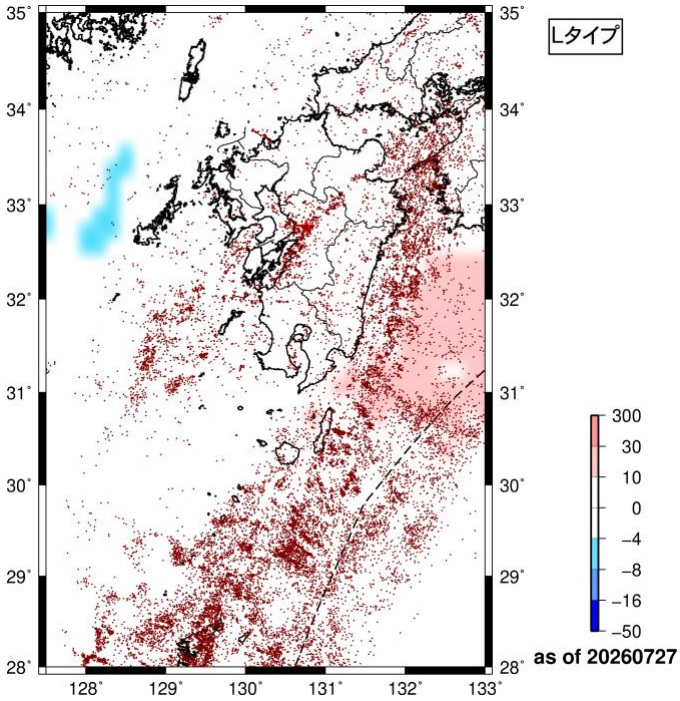
つまり、水俣市周辺の日奈久断層では、政府の地震調査委員会の発表にもあるとおり、今後大きな地震の発生可能性が高まり、阿蘇山については、噴火の可能性が大きくなったと可能性があります。

九州の地下天気図はどうだったのか？

DuMA では6月29日のニュースレターで、九州の地下天気図解析をお示しし、九州西方海域では地震活動静穏化の異常が出現していましたが、陸域では、静穏化異常は観測されていませんでした。

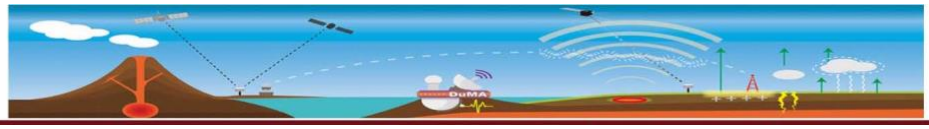
以下に6月29日のニュースレターに掲載した図と地震発生前日の7月27日時点の地下天気図をお示しします。地震発生の前にかなり青い静穏化領域が解消していた事がわかりました。





九州西方海域の静穏化は実際にはこの熊本地震の先行的変化であった可能性がありますが、熊本地震を予測することはできませんでした。

DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。　提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。 DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。 ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。(個人会員) — 記事の無断転用は禁止します。— 本掲載記事の著作権は DuMA** Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は **DuMA**が独占ライセンスを受けている登録商標です。**



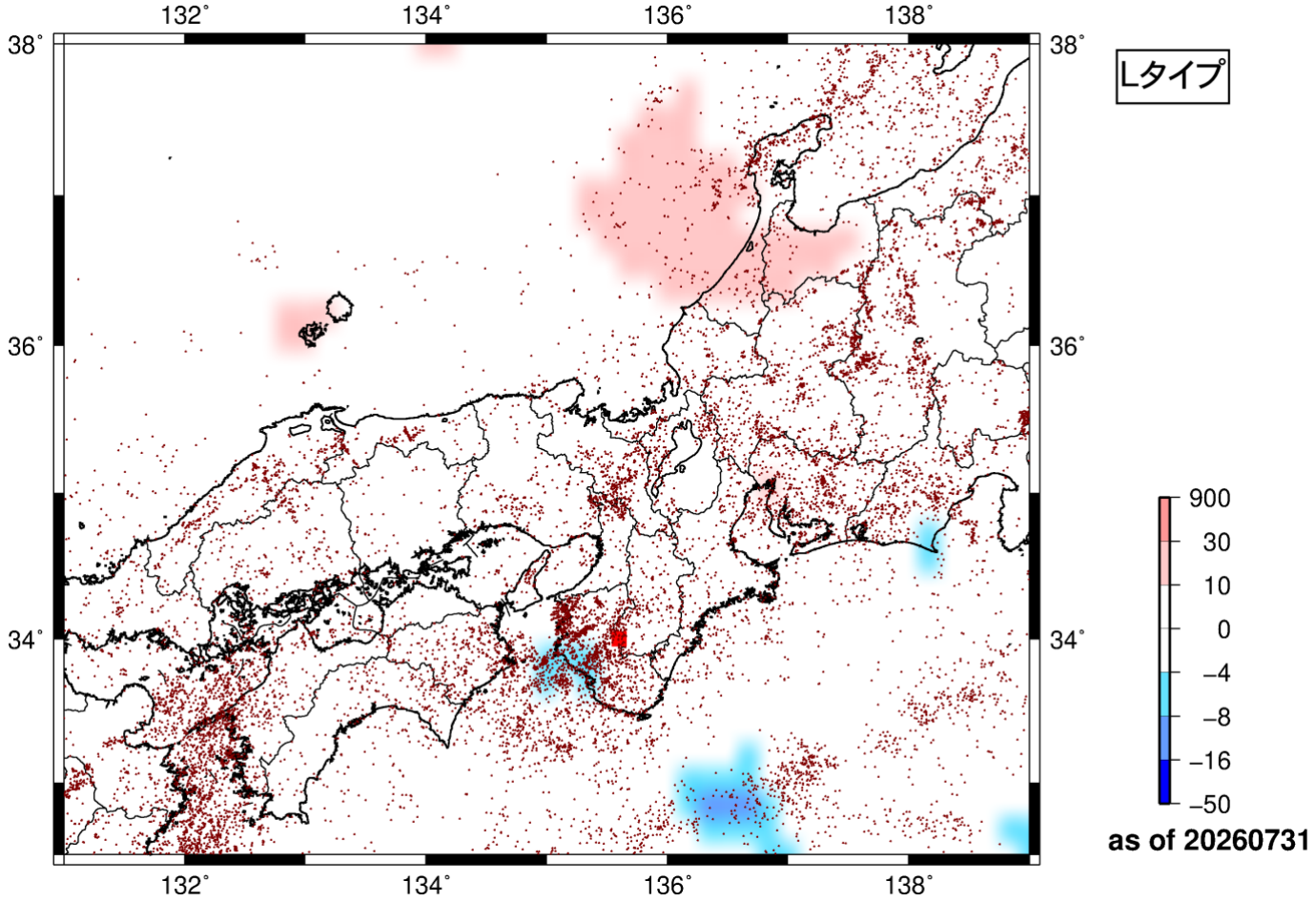
東海地方以西の地下天気図®

2026年6月22日のニュースレターに続き、今週は7月31日時点のＬタイプ地下天気図をお示しします。中部・近畿・中国・四国地方の解析です。

この地図内では、青く示される地震活動静穏化領域で大きなものは見られませんが、紀伊半島およびその沖合で静穏化現象が拡大していることがわかりました。

これらの静穏化はＭタイプ地下天気図でも認められています。

現時点では DuMA では**静岡県周辺**と**紀伊半島およびその沖合、さらに静岡県**に注目している事をお知らせしたいと思います。



DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。 提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。 DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。 ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。(個人会員) — 記事の無断転用は禁止します。— 本掲載記事の著作権は**DuMA** Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図® は **DuMA**が独占ライセンスを受けている登録商標です。